倶多楽の火山活動解説資料（平成26年４月）

札 幌 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月１日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図１-①、図２～11）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

30日に実施した現地調査では、日和山山頂爆裂火口の噴気温度は138℃で、2007年以降のやや高い状態が続いていました。日和山山頂爆裂火口、地獄谷の地表面温度分布[1)]や火口の状況に、特段の変化はありませんでした。

大正地獄は、2011年以降満水の状態が続いており、熱水がごく少量流出しているのを確認しました。

１）赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震及び微動の発生状況（図１-②）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図１-③）

衛星を用いた測位観測（GNSS連続観測[2)]）では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

２）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

・その他

１日～２日に、大湯沼の南東岸で硫黄の燃焼がありましたが、火山活動によるものではないと推定されます。詳しくは、４月２日発表の火山活動解説資料をご覧ください。

(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/sapporo/14m04/20140402_111.pdf)

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(http://www.jma-net.go.jp/sapporo/)や気象庁のホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子国土基本図（地図情報）』および、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』（承認番号　平23情使、第467号）を使用しています。

次回の火山活動解説資料（平成26年５月分）は平成26年６月９日に発表する予定です。

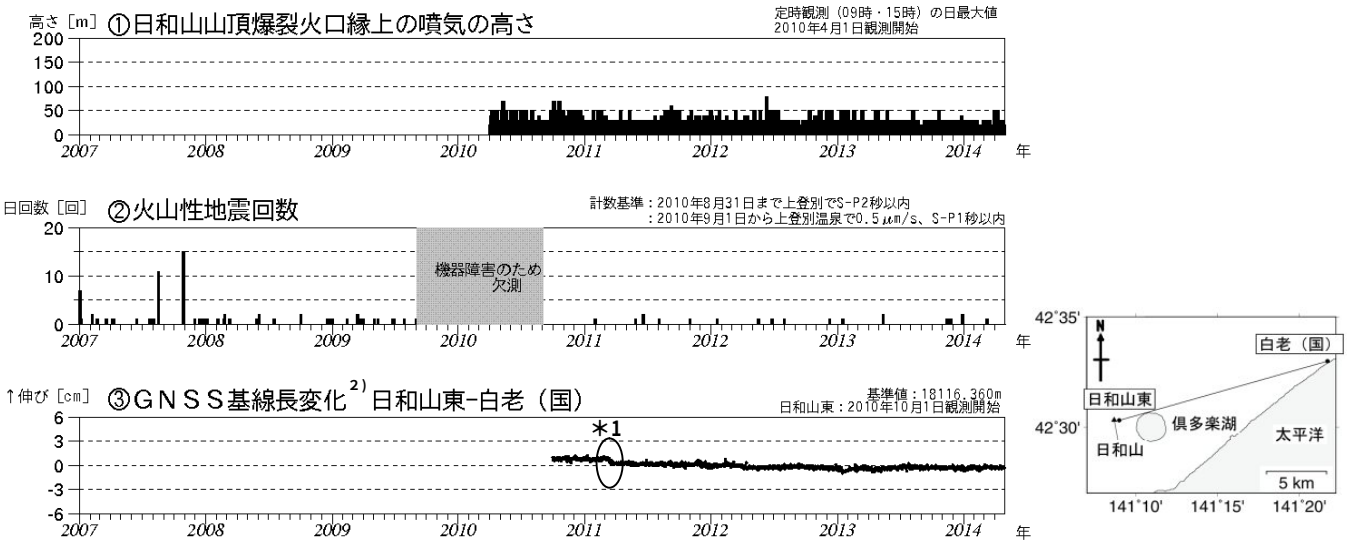

図１　倶多楽　火山活動経過図（2007年１月～2014年４月）、GNSS連続観測点配置図[2]

- **③のGNSS基線は配置図の基線に対応しています**
- **（国）：国土地理院**

＊1：楕円内の変動は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません

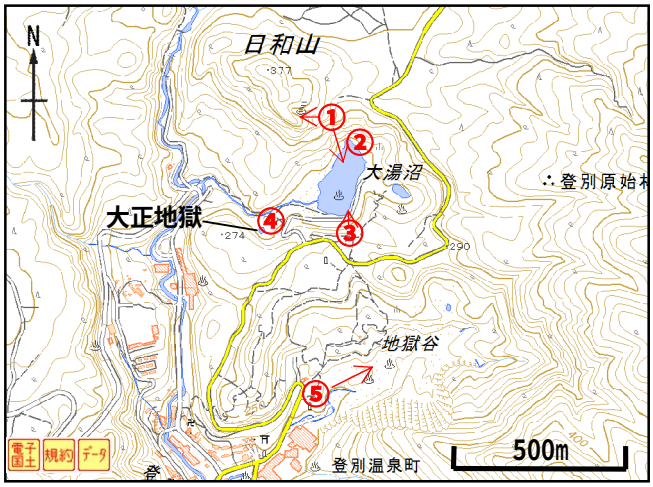

図２　倶多楽　日和山・地獄谷周辺図と写真の撮影方向（矢印）

図３　倶多楽　日和山山頂爆裂火口北西側噴気孔の状況（図２-①から西方向に撮影）

図４　倶多楽　大湯沼、奥湯沼、虚無地獄の状況　（図２-①から南東方向に撮影）

図５　倶多楽　大湯沼北方噴気孔の状況
（図２-②から西方向に撮影）

図６　倶多楽　大湯沼南東岸の状況
（図２-③から撮影）

図７　倶多楽　大正地獄の状況
（図２-④から南方向に撮影）

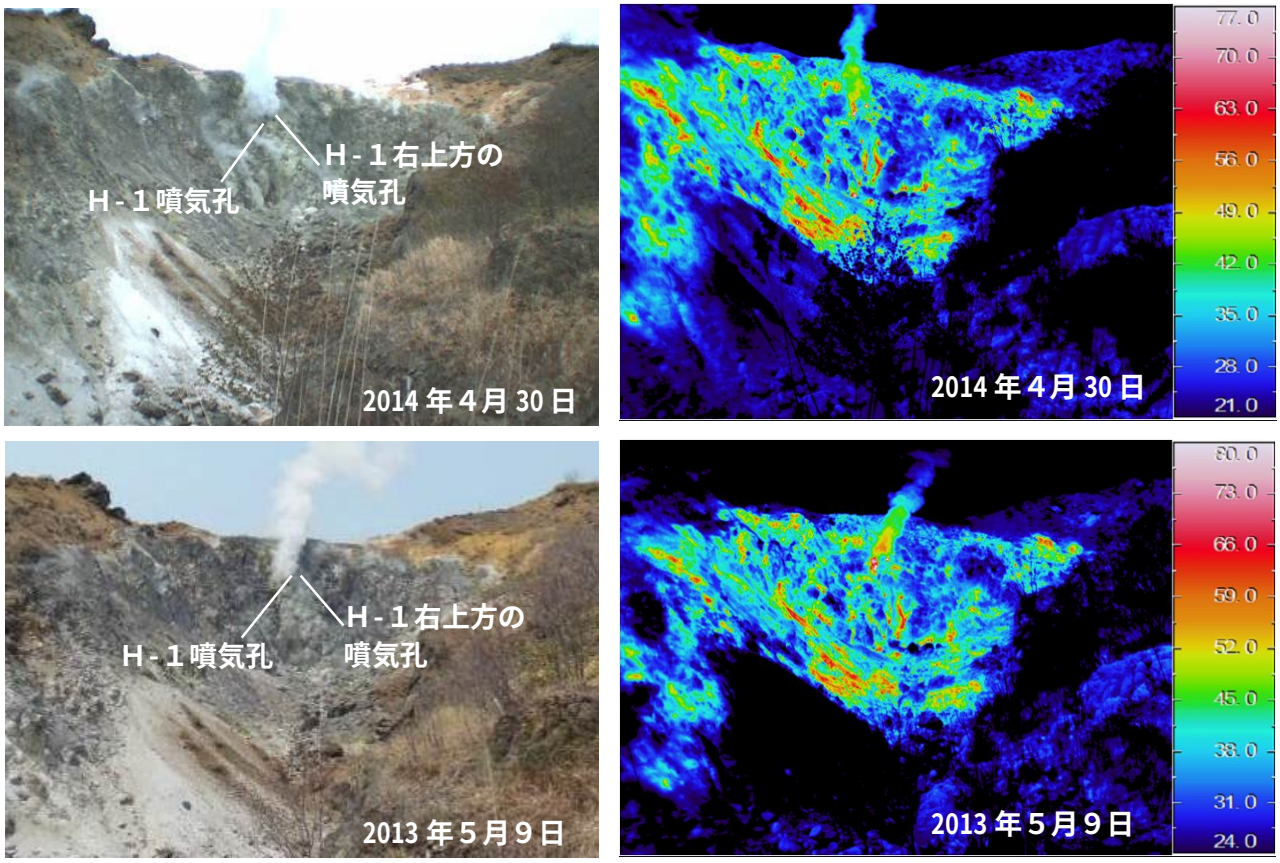

図８　倶多楽　日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布[1)]（図２-①から西方向に撮影）

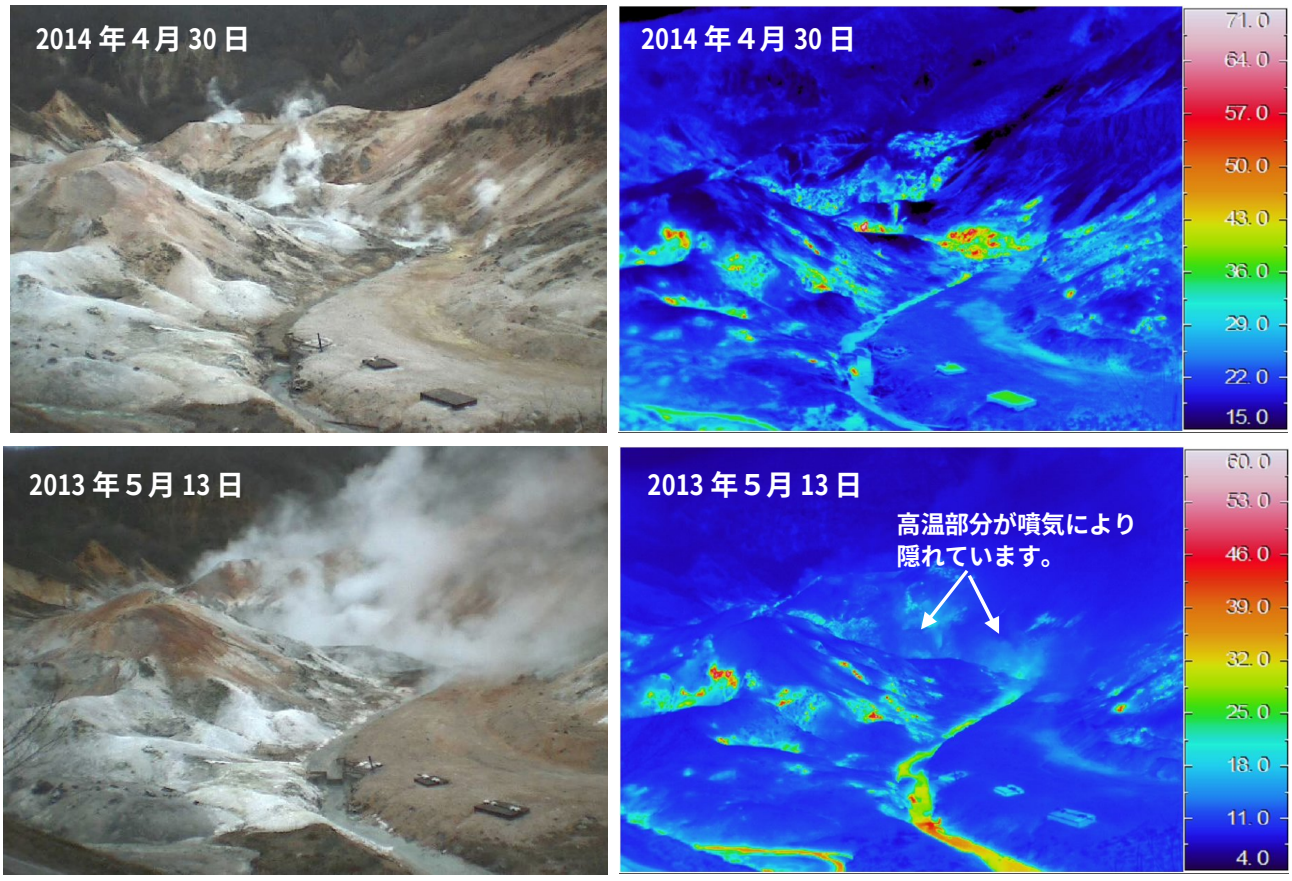

図９　倶多楽　地獄谷の地表面温度分布[1)]（図２-⑤から撮影）

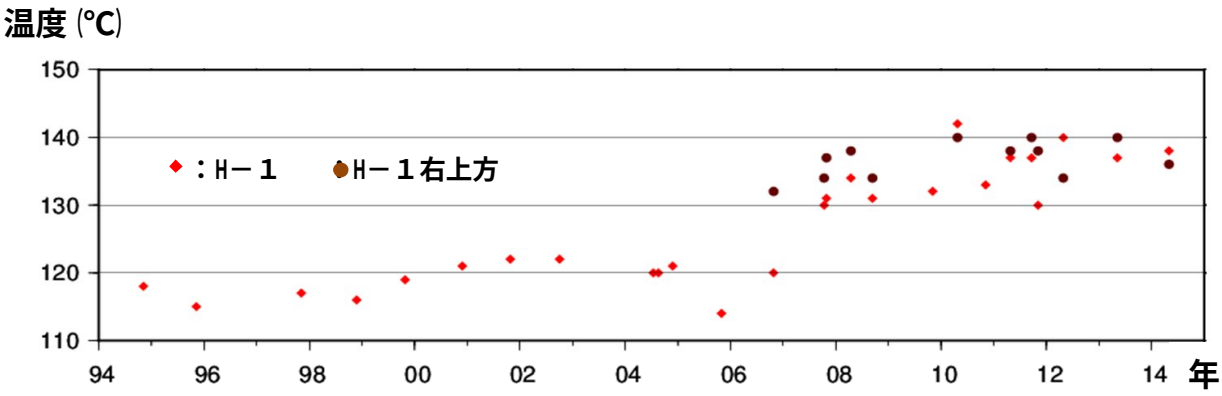

図 10　倶多楽　日和山山頂爆裂火口北西側噴気孔の噴気温度の推移（1994 年～2014 年）

図11　倶多楽　南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（４月29日、414m山遠望カメラによる）

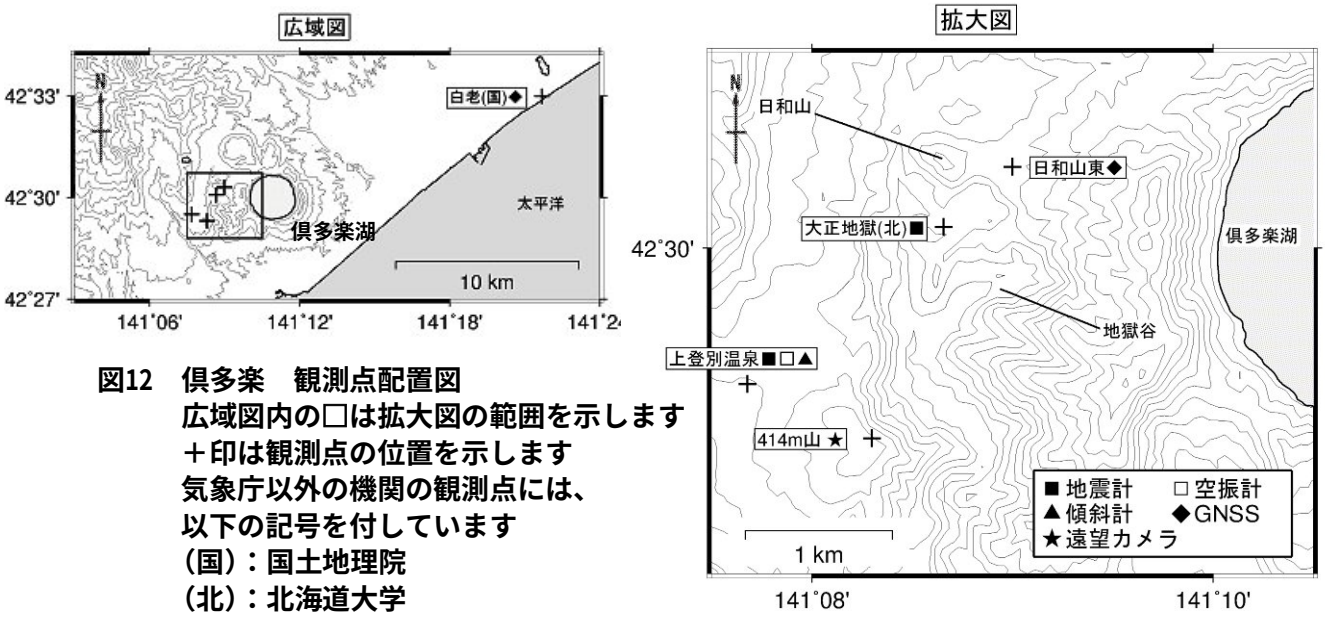

図12　倶多楽　観測点配置図
広域図内の□は拡大図の範囲を示します
＋印は観測点の位置を示します
気象庁以外の機関の観測点には、
以下の記号を付しています
（国）：国土地理院
（北）：北海道大学